

# 韓国語教材における文法記述の問題点

## —日本人学習者のための文法記述の提案—

金 蘭 美

### 1. はじめに

日韓ワールドカップをきっかけに近年日本と韓国の交流は盛んになり、経済や政治を始め、文化的な交流にも目覚ましい変化があった。特に「韓流」と言われている韓国ブームは音楽やドラマ、映画、ファッションやコスメなど、多岐にわたっており、もはやブームとは言えないほどである。このような影響から韓国語にも興味を持つ人が増え、韓国語教育の需要は段々と高まっているのが現状である。しかし、このようなニーズに応えるためのこれといった教材がないのも事実である。桂（2005）がいうように「韓国国内で蓄積された韓国教育の研究成果および開発した教材などが共有できていない状況」が、ブームが始まって10年が経つ今も、量的な成長こそあるとはいえ質的な面ではまだまだ問題が山積しているように感じる。特に、日本人を対象とした韓国語教材の場合、日本語で書かれている以外、日本人学習者にメリットとなるものがあまりないのが現状である。

本稿では、日本人学習者のための韓国語教材とは、単に日本語で書かれているだけでは不十分であることを指摘し、日韓対照研究の観点から、より母語である日本語の知識を生かした文法記述の必要性、およびメリットを主張したい。

さまざまな問題点の中で、比較的学習者に誤用の多いとされるテンス・アスペクトに関わる文法記述の問題点を取り上げることにする。まずは、初級の割と早い段階で提出される現在進行形の「-고 있다 (-go issda)<sup>1</sup>」を取り上げ、次に、初級後半・中級で導入される動詞現在連体形「-는 (-neun)」に言及する。最後に、「-아서 (-aseo)」を取り上げ、従属節のテンスや文末制限の文法記述の必要性について述べる。日本で市販されている教材を対象として、文法記述における問題点を指摘し、日韓対照研究

<sup>1</sup> 本稿におけるローマ字表記は韓国文化観光部告示第2000-8号の基準に従ったものである。

の成果を生かした日本人学習者のための文法記述を提案したいと思う。

## 2. 先行研究

本節では主に韓国語教材の問題点を指摘している研究を取り上げる。日本人学習者用の韓国語教材の内容を分析したものとして金ヘジン（2004）、朴（2011）、水原・尹（2012）などが挙げられる<sup>2</sup>。いずれも教材分析に関する研究が乏しいことに言及し、文法項目や内容などについて分析を行っている。

例えば、金ヘジン（2004）では、韓国語と日本語は形態論・統語論・意味論的な面で類似している反面、相違点も看過できないとし、対照言語学の側面から韓国語教材の分析を行っている。日韓両言語の使役表現、呼称、副詞などを取り上げ、文法に関する記述が不十分であることを指摘している。特に、「時制」に関しては、「体言を修飾する連体形において、過去と現在、未来の時制がはっきり分かれている韓国語とは異なり、日本語の場合は過去と現在形の時制のみである。そのため、動詞の語幹に付いて体言を修飾する未来連体形「- (을) ㄹ (eul/l)」の使用は日本人学習者にはあまり馴染みのない文法範疇である。(p. 476)」と述べ、時制の違いについてより詳しい記述が必要であると述べている。

また、永原・尹（2012）では、日本で出版されているテキストを「初級」「中級」「上級」のレベル別に取り上げ、文法項目の分析を行っており、レベルごとにどのような文法項目がポイントとなっているかを調査している。同論文では、多くのテキストで過去形がかなり後半で扱われているため、十分な練習ができないまま中級に進んでしまうという問題点を指摘し、過去形をより初級の早い段階で提示することを提案している。中級のテキストの問題点に関しては、韓国語能力試験の出題傾向等を踏まえ、現実でのニーズをより細かく取り入れたテキストが必要であることに言及している。朴（2011）でも、教科書の内容をより体系的に構成する必要があることを指摘している。

このように先行研究ではいずれも、韓国語教材の現況を報告し、問題点については指摘しているものの具体的にどのように改善をすれば良いか、についてはあまり触れていない。日本語と韓国語の場合、語順や助詞のみならず時制などの文法体系が類似していることが多い。そのため、韓国人の日本語学習にはメリットとなることが多く、実際に他言語母語話者に比べ習得も早いと言われているが、同じことが日本人の韓国語学習者にも言えるのではないだろうか。ただし、類似点のみを強調しては、過剰一般化などの誤用につながる恐れがある。類似点を強調した方がよい文法項目と、相違点に関する指導が必要な項目を教師側が知っておけば、より効果的な指導が可能になると

---

<sup>2</sup> 著者名がハングルの場合、カタカナ表記にしている。また、韓国語による論文の引用および参考文献リストに関しては筆者が翻訳したものを載せている。

考えられる。しかし、現在、日本人用の韓国語教材の場合、こういった日韓両言語の類似点や相違点の記述が不十分であり、単純化し過ぎているものが多いように思われる。

以上を踏まえ、本稿では、日本人学習者により母語の知識を生かしたわかりやすい文法記述を提案したいと思う。その例として、現在進行を表す補助動詞「-고 있다 (-go issda)」、動詞の現在連体形語尾「-는 (-neun)」、原因・理由の連結語尾「-아서 (-aseo)」を取り上げ、韓国語教材における説明の不合理さ、不十分さを指摘し、韓国語と日本語との相違点、類似点を生かした説明を試みたい。

### 3. 分析に用いる教材

取り上げる教材は以下の①～⑧の通りであり、なお、これらの教材は、大学や語学学校等で幅広く使用されているものである。①～④は初級の教材、⑤～⑧は初・中級の教材である。

- ①『カナダ KOREAN for Japanese 初級 1』カナダ韓国語学院 (1997) Language Plus (改訂 2004 年)
- ②『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』木内明 (2004) 国書刊行会
- ③『新・チャレンジ! 韓国語』金順玉・阪東千津子 (2009) 白水社
- ④『できる韓国語初級 I <新装版>』新大久保語学院・李志暎 (2010) DEKIRU 出版
- ⑤『カナダ KOREAN for Japanese 初級 2』カナダ韓国語学院 (1998) Language Plus (改訂 2003 年)
- ⑥『基礎から学ぶ韓国語講座 中級』木内明 (2005) 国書刊行会
- ⑦『もっとチャレンジ! 韓国語』金順玉・阪東千津子 (2007) 白水社
- ⑧『楽しくできる韓国語初級 II』李志暎・金鎮姫 (2006) DEKIRU 出版

以下、①～⑧をそれぞれ、『①カナダ 1』、『②基礎・初』『③新』『④できる I』『⑤カナダ 2』『⑥基礎・中』『⑦もっと』『⑧できる II』と記す。

## 4. 文法記述における問題点および提案

### 4. 1 現在進行形「고 있다 (-go issda)」

各教材における「-고 있다 (-go issda)」の説明と問題点を以下にまとめる。紙幅の関係から練習問題等と重複するものなど、例文の一部を省略している。

- ・『①カナダ』第 20 課 pp. 163-166

「~고 있다」「~ている」: 動詞の語幹について動作が進行中であることを表す

(p. 164)」

例文として、「아이가 자고 있습니다 (a-iga jago iss-seubnida) 子供が寝ています」、「스티브 씨는 신문을 읽고 있습니다 (seutibeu ssineun sinmun-eul ilggo iss-seubnida) スティーブさんは新聞を読んでいます」、「요즘 도서관에서 아르바이트를 하고 있습니다 (yojeum doseogwan-eseo aleuba-iteuleul hago iss-seubnida) 最近、図書館でアルバイトをしています」が、練習問題では、「회의를 하고 있습니다 (hoeuireul hago itseumnida) 会議をしています」「목욕하고 있습니다 (mogyokhago itseumnida) お風呂に入っています」、「태권도를 배우고 있습니다 (taegwondoreul baeugo itseumnida) テコンドを習っています」「편지를 쓰고 있습니다 (pyeonjireul sseugo itseumnida) 手紙を書いています」「친구를 기다리고 있습니다 (chingureul gidarigo itseumnida) 友達を待っています」「컴퓨터 회사에서 일하고 있습니다 (computer hoesaeseo ilhago itseumnida) コンピューター会社で働いています」などが挙げられている。

・『②基礎・初』第15課 pp. 128-132

「-고 있어요」「～している」：用言の語幹に「-고 있다」をつけると、現在進行形の文になります。語幹のパッチムの有無は関係ありません p. 130)」

例としては、「식사하고 있습니다 (sigsahago iss-seubnida) 食事しています」、「공부하고 있어요 (gongbuhago iss-eo-yo) 勉強しています」などが、練習問題では、「지갑을 찾고 있습니다 (jigab-eul chajgo iss-seubnida) 財布を探しています」「자동차를 운전하고 있습니다 (jadongchaleul unjeonhago iss-seubnida) 自動車を運転しています」「음악을 듣고 있습니다 (eum-ag-eul deudgo iss-seubnida) 音楽を聴いています」「무엇을 배우고 있습니까? (mu-eos-eul bae-ugo iss-seubnikka?) 何を習っているんですが→태권도를 배우고 있습니다 (taegwondoleul bae-ugo iss-seubnida) テコンドを習っています」などが挙げられている。

・『③新』第11課 pp. 73-75

「～しています」：動作の進行や状態の継続を表します。語幹末のパッチムの有無に関係なく語幹にそのままつけます (p. 75)」

例としては、「A: 지금 뭐해요? (jigeum mwohae-yo?) 今何をしていますか。」に対し、「B: <책을 읽>고 있어요 (<chaeg -eul ilg>go iss-eo-yo) 本を読んでいます」

「밥을 먹고 있어요 (bab-eul meoggo iss-eo-yo) ご飯を食べています」「요리하고 있어요 (yolihago iss-eo-yo) 料理しています」「아르바이트를 하고 있어요 (aleuba-iteuleul hago iss-eo-yo) アルバイトをしています」が挙げられている。

・『④できる I』第20課 pp.162-164

「-고 있어요」(現在進行: ~ています): 現在進行中のことを述べるときは、用言の語幹に「-고 있어요」をつけます (p.164)」

例としては、「지금 요리를 하고 있어요 (jigeum yolileul hago iss-eo-yo) 今、料理をしています」「요즘 학교에 다니고 있어요. (yojeum haggyo-e danigo iss-eo-yo) 最近学校に通っています」が挙げられている。

以上、初級教材における「-고 있다 (-go issda)」の説明や例文にどのようなものがあるかを見てきた。それをまとめると、以下の i と ii の通りである。

- i. 共通して現在進行中、動作が進行中であることを意味するとしている。『③新』のみで「状態の継続」について言及している(波線部)。
- ii. 例文は動作の継続を表すものがほとんどであるが、一部の例文や練習問題には習慣的や反復的な出来事を表すものが挙げられている(太字)。

しかし、i・iiのような記述には問題がある。iの場合、学習者に現在進行中である動作のみに「-」が使えるという誤解を与えかねない。特に、現在進行中の動作と言っておきながら、例には習慣や反復的に行われる出来事など、状態性を帯びるものが多数含まれている。状態の継続を表すのは「-고 있다 (-go issda)」の重要な用法であるが、それに関する記述が見られたのは『③新』のみである。とはいえ、『③新』の「状態継続」という記述では「状態継続」であればすべて「-고 있다 (-go issda)」が使えるという誤解が生じる余地がある。韓国語の場合、「状態継続」には二つの種類があり、結果残存の状態である場合は「-아 있다 (-a issda)」という別の表現形式が存在する<sup>3</sup>。したがって、「状態の継続」という説明だけでは依然として誤用を招いてしまう恐れがある。

例えば、次の例(1)は、5年ほどの韓国語学習歴を持つある日本人学習者のスピーチから拾った例であるが、この学習者の場合、「-고 있다 (-go issda)」を「～ている」として理解している様子が見えがえる。例(1)は、苺狩りに行ったときの話

<sup>3</sup> 例えば、「벚꽃이 피어 있다 (beojkkoch-i pi-eo issda) 桜が咲いている」

で、ビニールハウスに「苺がたくさんなっていました」という意味の文である。「苺がたくさんなっていました」は状態の継続であるので、『⑦もっと』のような説明だと「-고 있다 (-go issda)」が使えるように思われるが、動作や行為が終わった後にその結果が持続する場合、韓国語では例(2)のように「-아 있다 (-a issda)」の方が選ばれるのである。

- (1) \*딸기가 많이 열리고 있었어요.  
(ttalgiga manh-i yeolligo iss-eoss-eo-yo)
- (2) 딸기가 많이 열려 있었어요.  
(ttalgiga manh-i yeollyeo iss-eoss-eo-yo)  
(苺がたくさんなっていました)

「-고 있다 (-go issda)」=「～ている」では、例(1)のような誤用を防ぐことは難しく、だからといって「-아 있다 (-a issda)」を「-고 있다 (-go issda)」と同時に導入することも学習者には負担になるだろう。それでは、「-고 있다 (-go issda)」の「状態継続」という意味用法をどう説明すると、誤解が生じることなく、学習者に伝わりやすくなるのだろうか。本稿では、以下のように提案する。

- ・提案1: 「-고 있다 (-go issda)」は、主に「現在進行」を表し、日本語の「～ている」に相当する。また、「状態継続」の意味を表すことがあるが、「習い事、職業、趣味、習慣」などの習慣的・反復的に行われることを表すときに使う。

上記のように説明をすると「今ご飯を食べています」「寝ています」のような現在進行中の動作と「テコンドを習っています」「最近アルバイトをしています」などの「状態継続」の違いがよりはっきりし、学習者の誤用を防ぐ手助けにもなると考えられる。

#### 4. 2 動詞の現在連体形語尾「-는 (-neun)」

形容詞の場合は両言語におけるテンスのずれはない。ここでは動詞の場合を取り上げる。各教材における動詞の現在連体形の説明を以下にまとめる。

- ・『⑤カナダ2』第6課 pp. 53 - 58

「-는」: 動詞の語幹について現在時制を表す連体形語尾。「～있다」「～없다」には動詞の現在連体形「-는」を用いる (p. 54)

例としては、「아이가 좋아하는 과자를 사 주십시오 (a-iga joh-ahaneun gwajaleul sa jusibsi-o) 子供が好きなお菓子を買ってあげてください」「그 사람이 사는 집을

아십니까? (geu salam-i saneun jib-eul asibnikka?) その人が住んでいる家を知っていますか」などが、練習問題では「공부하는 학생 (gongbuhaneun hagsaeng) 勉強している学生」「기다리는 사람 (gidalineun salam) 待っている人」「요즘 읽는 책 (yojeum ilgneun chaeg) 最近読んでいる本」「같은 반에서 공부하는 친구 (gat-eun ban-eseo gongbuhaneun chingu) 同じクラスで勉強している友達」「저 가게에서 아르바이트를 하는 사람이 제 친구입니다 (jeo gage-eseo aleuba-iteuleul haneun salam-i je chingu-ibnida) あの店でアルバイトをしている人が私の友達です」などが挙げられている。

・『⑥基礎・中』第3課 pp.20-25

「動詞、存在詞<sup>4</sup>の現在連体「語幹+는」: 動詞の連体形は語幹に는がつきます。「行く人」という時には、動詞가다(行く)の語幹가に는をつけ連体形にします。それに사람(人)が続き、가는 사람(行く人)になります(p.22)」

例としては、「좋아하는 음식 (joh-ahaneun eumsig) 好きな食べ物」「여기 있는 사람 (yeogi issneun salam) ここにいる人」「아는 사람 (aneun salam) 知っている人」「사는 집 (saneun jib) 住んでいる家」「읽는 만화책 (ilgneun manhwa chaeg) 読んでいる本」などが挙げられている。

・『⑦もっと』第1課 pp.8-13

「「-는」+体言 ～している、～する<動詞・存在詞の現在連体形>: 体言を修飾して、現在進行の動作や習慣、一般的な事実を表します。すでに予定が決まっていることにも使えます(p.11)」

例としては、「택시를 기다리는 사람 (taegsileul gidalineun salam) タクシーを待っている人」「자주 듣는 음악 (jaju deudneun eum-ag) よく聞いている音楽」「시간이 있는 사람 (sigan-i issneun salam) 時間のある人」などが、練習問題では、「매일 아침 마시는 커피 (mae-il achim masineun keopi) 毎朝飲んでいるコーヒーです」などが挙げられている。

・『⑧できるⅡ』第1課 pp.6-11

「「-는」 動詞の現在連体形 (～する+名詞): 動詞が名詞を修飾するときみは連体形

<sup>4</sup> 韓国語の品詞分類の一つ。「있다 (issada)」「없다 (eobada)」で、日本語の「ある」「ない」にあたる。

が使われます。動詞の語幹に「-는」を付けて現在時制を表します。語幹の「ㄹㅂㅈ」は脱落されます (p.8)

例としては「듣는 사람 (deudneun salam) 聞いている人」「영화를 보는 사람이 언니입니다 (yeonghwaleul boneun salam-i eonni-ibnida) 映画を見ている人がお姉さんです」「옆집에 사는 남자를 아세요? (yeopjib-e saneun namjaleul ase-yo?) 隣に住んでいる男の人を知っていますか」などが、練習問題では、「밥을 먹는 사람이 정현씨예요 (bab-eul meogneun salam-i jeonghyeonssi-ye-yo) ご飯を食べている人がチョンヒョンさんです」「텔레비전을 보는 아이가 제 아들이예요 (tellebijeon-eul boneun a-iga je adeul-i-e-yo) テレビを見ている子が私の息子です」などが挙げられている。

以上、韓国語教材における「動詞の現在連体形」の説明や例文を見てみた。これをまとめると、以下のiiiからvの通りである。

- iii. 共通して「-는 (-neun)」は動詞の現在連体形としており(波線部)、活用の仕方を説明しているものがほとんどであるが、それが何を表すかについてはあまり言及していない。『㉗もっと』でのみ、その意味用法に関して言及している。
- iv. 対応する日本語の形式としては「～する+体言」や「～している+体言」が見られており、『㉗もっと』では両方を提示している(二重下線部)。例文には、日本語にすると「～している+体言」のものが多く見られる。
- v. 例文には、現在進行中の動作を表すものの他に、習慣や一般的な事実を表すものが多く見られている。ただし、「習慣や一般的な事実」に関する記述があるのは『㉗もっと』のみである。

上記のように、文法の記述と挙げられている例文に食い違いがあり、このままでは学習者の混乱を招きやすい。特に、「-는 (-neun)」に対応する日本語の形式を「～する」のみとしている記述は問題があるように思う。なぜなら、日本語の動詞の「ル形」は、例えば「明日学校に行く人」のように「未来」を表すことも可能であるからである。一方、韓国語の場合、「먹는 사람 (meogneun salam)」は「今食べている人」のように現在進行中の動作や「よく食べる人」のように現在の状態(この場合は人の属性)を表すことが可能で、日本語とは異なっているのである。さらに、対応する日本語の形式を「～する」としながら、例文では「-는 (-neun)」が、「～している」と解釈されるものが多く、これらも混乱を招く原因となっている。さらに、「現在進行中」という記述は「今まさに動作をしている」のイメージが強く、「요즘 자주 듣는 음악



(yojeum jaju deudneun eum-ag) 最近聞いている音楽」のような習慣的・反復的なことの説明としては適切ではないと思われる。

以上から、「-는 (-neun)」に対応する日本語の形式を提示するだけでは、さまざまな問題があり、説明の記述としては不十分であることがわかる。それでは、どのように記述すればいいだろうか。本稿では「動詞現在連体形」の「-는」に対応する日本語の形式としては「～する、～ている」を、意味用法としては「習慣的なこと、一般的なことを表す」を提案する。ただし、「-는 (-neun)」が持つ現在進行中の動作に関しては、現在進行中の動作を表す「-고 있다 (-go issda)」の連体形「-고 있는 (-go issneun)」を使えば良いので、混乱を避けるため、ここでは言及しないことが前提となる。例えば、「지금 읽는 책 (jigeum ilgneun chaeg)」は「지금 읽고 있는 책 (jigeum ilggo issneun chaeg)」に置き換えられ、両方とも「今読んでいる本」を表すので意味の差もないのである。以上を踏まえ、本稿では以下のように提案したい。

- ・提案2：「動詞現在連体形-는」は日本語の「～する、～している+体言」に対応する。主に「反復的に行われていること、習慣的なこと、一般的な事実」を表す。現在進行中の動作の場合は、「-고 있는 (-go issneun) +体言」を使う。

#### 4. 3 原因・理由の連結語尾「-아서 (-aseo)」

各教材における「-아서 (aseo)」に関する記述を以下にまとめる。「-아서 (aseo)」には、主に理由を表す用法と先行動作を表す用法の二つの用法があるが、ここでは、理由を表す用法を中心に述べ、必要に応じ「先行動作」の用法についても言及する。

- ・『④できる I』第16課 pp.138-143

「-아/어서 (理由・原因：～ので)：理由や原因を表す連結語尾で、「-아서」(語幹の母音が「ㅏ、ㅑ」の場合)または「어서」(語幹の母音が「ㅏ、ㅑ」以外の場合)で文をつなげます。ただし、過去のことを述べるときは「-아/어서」に過去形「-았/였」をつけることはできませんので気をつけてください (p.140)」

例としては、「바람이 불어서 춥습니다 (balam-i bul-eoseo chubseubnida) 風が吹いて寒いです」「너무 맛있어서 또 먹었어요 (neomu mas-iss-eoseo tto meog-eoss-eo-yo) とてもおいしくてまた食べました)」などが、練習問題としては、「늦어서 택시를 탔어요 (neuj-eoseo taegsileul tass-eo-yo) 遅れてタクシーのりました」「일이 많아서 바빠요 (il-i manh-aseo bappa-yo) 仕事が多くて忙しい」などが挙げられている。

・『⑤カナダ2』第4課 pp. 31-36

「「～아/어/여서」：前文が後文の「理由・原因」であることを表す連結語尾。動詞の語幹末音節の母音が「아/오」であるときは「～아서」が付き、それ以外の母音のときは「～어서」が付き、하다動詞の場合は「～여서」が付く。なお、時制接尾辞「았, 겠」に「아/어/여서」は接続詞ない (p. 32)」

例としては、「늦어서 미안합니다 (neuj-eoseo mi-anhabnida) 遅れてすみません」「어제 갑자기 손님이 오셔서 일을 하지 못 했습니다 (eoje gabjagi sonnim-i osyeoseo il-eul haji mos haess-seubnida) 昨日、急にお客さんが来られて仕事ができませんでした」などが、練習問題では「늦게 전화해서 죄송합니다 (neujge jeonhwahaeseo joesonghabnida) 電話が遅れて申し訳ありません」「같이 가지 못해서 죄송합니다 (gat-i gaji moshaeseo joesonghabnida) ご一緒できなくて申し訳ありません」などが挙げられている。

・『⑥基礎・中』第1課 pp. 6-11

「「～して、～なので（動作の原因、様態）」：「なので」、「～して」と理由や根拠を述べたりするようなときは、用言の「아/어形」に서をつけます。また、서は「～してから」のように「動作の先行」を意味する表現として使われます (p. 8)」

「原因・様態」の例としては、「비싸서 못 삽니다 (bissaseo mos sabnida) 高くても買えません」「머리가 아파서 약을 먹었습니다 (meoliga apaseo yag-eul meog-eoss-seubnida) 頭が痛くて薬を飲みました」が、「動作の先行」の例としては「시장에 가서 옷을 샀습니다 (sijang-e gaseo os-eul sass-seubnida) 市場に行って服を買いました」「만나서 이야기합니다 (mannaseo i-yagihabsida) 会って話しましょう」などが挙げられている。練習問題では、「늦어서 미안합니다 (neuj-eoseo mi-anhabnida) 遅れてすみません」「만나서 반갑습니다 (mannaseo bangabseubnida) 会えて嬉しいです」「바빠서 못 갑니다 (bappaseo mos gabnida) 忙しくて行けません」などが挙げられている。

・『⑦もっと』第1課～第2課 pp. 14-19

「「～아/어서」～なので<理由>」：後続の原因や理由を述べるときにつかいます。하다用言の場合は해서になります。作り方は1課の①と同じです。後ろに命令形や勧誘形がくることはできません (p. 15)」

練習問題に、「운전을 오래 해서 피곤해요 (unjeon-eul olae haeseo

pigonhae-yo) 長く運転をして疲れました」 「방이 밝아서 맘에 들어요 (bang-i balg-aseo mam-e deul-eo-yo) 部屋が明るくて気に入りました」 「더워서 에어컨을 켜어요 (deo-woseo e-eokeon-eul kyeoss-eo-yo) 暑くてクーラーを付けました」などが挙げられている。

以上をまとめると、以下のvi・viiの通りである。

- vi. 原因・理由の「-아서 (-aseo)」に対応する日本語の形式は「～(な)ので」「～して」である。
- vii. 過去形と接続できず、後文に「命令形・勧誘形」が来ないという文末制限がある。

しかし、以上のような記述のみでは不十分であり、誤用に繋がる恐れがある。まず、viに関して言えば、対応する日本語形式として「～(な)ので」は適切ではない。なぜなら、日本語の「(な)ので」は「過去の「夕」+ので」のように過去の出来事を述べる事が可能であるからである。それに対して、韓国語の「-아서 (-aseo)」は過去形とは接続できないのである。学習者には例(3)のように「-아서 (-aseo)」に過去形を接続する誤用がしばしば見られるが、これは対応する形式を「(な)ので」にしていることによるものが大きい。このような誤用を防ぐためには、対応する形式を「～して」にすべきだろう。日本語の接続助詞「～て」の場合、「-아서 (-aseo)」同様、過去形は接続できないため、混同する確率も下がるのではないかと思う。これは文末制限に関する説明にも非常に有効であると考えられる。

- (3) \*머리가 아팠어서 약을 먹었어요.  
(meoliga apass-eoseo yag-eul meog-eoss-eo-yo)
- (4) 머리가 아파서 약을 먹었어요.  
(meoliga apaseo yag-eul meog-eoss-eo-yo)  
(頭が痛くて薬を飲みました)

前述のとおり、文末の制限に関する言及がある教材があまりないのも問題の一つである。『⑤カナダ2』『⑦もっと』には文末制限に関する言及があるが、他の教材からはあまり見られない<sup>5</sup>。例えば、例(5)は誤用であるが、誤用の原因は「命令形・勧

<sup>5</sup> 『④できるI』の場合、該当する課には文末制限に関する言及はないが、『⑧できるII』の第15課の理由表現のまとめには説明がある。

誘形」の場合は理由を表す表現の「-니까 (-nikka)」と共起し、「-아서 (-aseo)」とは共起しないことにある。

(5) \*그 영화는 아주 재미있어서 꼭 한번 보세요.

(geu yeonghwaneunaju jaemi-iss-aseo kkgog hanbeon bose-yo)

(6) 그 영화는 아주 재미있으니까 꼭 한번 보세요.

(geu yeonghwaneunaju jaemi-iss-eunikka kkgog hanbeon bose-yo)

(あの映画はとても面白いからぜひ一度見てください)

さらに、文末制限に関する記述と共に共起しやすい表現に関する記述も必要であると考えられる。というのも、韓国語の「-아서 (-aseo)」は日本語の理由を表す接続助詞「～て」と同様、「감사하다 (gamsahada) ありがたい」や「죄송하다 (joesonghada) 申し訳ない」「기쁘다 (gippeuda) 嬉しい」など、後文にお礼や謝罪など感情を表す表現と共起しやすいからである。

以上のように、対応する日本語の形式として「(な) ので」ではなく「～して」を用いることのメリットはかなり多いと思われる。特に、主に原因・理由を表す「-아서 (-aseo)」の後に導入される「先行動作」用法の「-아서 (-aseo)」も「(な) ので」ではなく「～して」と対応するため、スムーズにつながるができると思われる。以上を踏まえ、本稿では「-아서 (-aseo)」の記述を以下のように提案する。

- ・提案3: 「-아서 (-aseo)」は、日本語の「～して」に対応し、「原因・理由」と「先行動作」の用法がある。「原因・理由」の場合、文末に「命令・依頼・勧誘」など、相手に働きかける表現は使えない<sup>6</sup>。理由を表す他の表現との最も大きな違いは、「감사하다 (gamsahada) ありがたい」や「죄송하다 (joesonghada) 申し訳ない」「기쁘다 (gippeuda) 嬉しい」など、感情を表す表現が使えるということ、過去形と接続しないということである。

<sup>6</sup> 「原因・理由」用法に関しては、「～して」と対応すると記述しても、「原因・理由」の持つ意味の面から「ので」との混同が予想されるため、文末制限や過去形との接続に関する記述が必要であると思われる。しかし、「先行動作」の用法の場合は対応する形式を「～して」にすると、韓国語と日本語の間でずれがないため、これらの記述は必要ないと考えられる。

## 5. まとめと今後の課題

以上、日本人を対象とした韓国語教材に、日本語で書かれた以外、韓国語との類似点や相違点を生かした文法記述が不十分で、不合理であることを確認した。また、その中から「-고 있다 (-go issda)」「-는 (neun)」「-아서 (-aseo)」の三つの文法項目を取り上げ、文法記述における問題点および、改善策として以下のⅠ～Ⅲを提案した。

- Ⅰ. 「-고 있다 (-go issda)」は、主に「現在進行」を表し、日本語の「～ている」に相当する。また、「状態継続」の意味を表すことがあるが、「習い事、職業、趣味、習慣」などの習慣的・反復的に行われることを表すときに使う。
- Ⅱ. 「動詞現在連体形-는」は日本語の「～する、～している+体言」に対応する。主に「反復的に行われていること、習慣的なこと、一般的な事実」を表す。現在進行中の動作の場合は、「-고 있는 (-go issneun) +体言」を使う。
- Ⅲ. 「-아서 (-aseo)」は、日本語の「～して」に対応し、「原因・理由」と「先行動作」の用法がある。「原因・理由」の場合、文末に「命令・依頼・勧誘」など、相手に働きかける表現は使えない。理由を表す他の表現との最も大きな違いは、「감사하다 (gamsahada) ありがたい」や「죄송하다 (joesonghada) 申し訳ない」「기쁘다 (gippeuda) 嬉しい」など、感情を表す表現が使えるということ、過去形と接続しないということである。

本稿で指摘したのは文法項目のごく一部に過ぎず、問題は山積していると言えよう。日韓対照研究の蓄積を韓国語教育にも還元し、今後はより日本人が母語である日本語の知識を利用できるように、教材の記述の仕方を工夫する必要があると思われる。これを実現するためには韓国語教師は韓国語教育に関する知識のみならず、日本語教育分野にも詳しくなくてはならないと思う。外国語としての韓国語教育はまだまだ始まったばかりであり、解決すべき課題も非常に多い。今後は日本語教育の成果を韓国語教育に生かすことの必要性やメリットについても検討していきたいと思う。

### <参考文献>

- 李徳泳 (1990) 「アスペクトにおける日韓両言語の対照研究」『日本語教育』72 pp. 53-67 日本語教育学会
- 梅田博之 (1980) 「朝鮮語を母語とする学習者のための日本の教材作成上の問題点」『日本語教育』40 pp. 35-46 日本語教育学会
- 梅田博之・村崎恭子 (1987) 「現代朝鮮語」『講座日本語学 11—外国語との対照Ⅱ—』pp. 40-60

明治書院

- 永原歩・尹亭仁 (2012)「日本における韓国語テキストについて—大学での教材を中心に—」『神奈川大学言語研究』34 pp.95-133 神奈川大学
- 若生正和 (2007)「韓国語アスペクト形式 ‘-고 있다 (-ko isssta)’ と時の副詞との共起可能性について」『大阪教育大学紀要』55-2 大阪教育大学
- 蔽廷美 (2006)「日本語と韓国語の接続助詞「～て」と「～해서」、「～하고」についての意味論的考察—日本人学習者のための韓国語教育の観点から—」『言語文化論集』4 pp.215-230 関西学院大学
- 金京愛 (2006)「現代韓国語のアスペクト形式<-ko iss->の意味分析—日本語の「-ている」との比較の観点から—」『京都大学言語学研究』25 pp.187-215 京都大学
- 金鉉哲 (2006)「韓国語教育における日韓教材の現況と問題点—東北大学の展開朝鮮語テキスト開発のために—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』1 pp.109-118 東北大学高等教育開発推進センター
- 許宰碩 (2004)「現代日本語の過去テンスについて—韓国語との対照の観点から—」『筑波日本語研究』9 pp.14-35 筑波大学
- 桂正淑 (2005)「日本における韓国語学習・教育の問題点—韓国語テキストの比較—」『文化情報学』12-2 pp.33-45 駿河台大学

(韓国語文献)

- 李サンオク (1998)「外国人用韓国語教材における文法事項の比較評価」『韓国語教育』9-2 pp.105-119 国際韓国語教育学会
- 金ヘジン (2004)「日韓対照言語学の観点からみた(日本人学習者用)韓国語教材の内容分析」『国際韓国語教育学会 国際学術大会発表資料集』2004 pp.469-480 国際韓国語教育学会
- 金ホジョン (2004)「(韓国語教材における時制および相に関する文法内容の研究)」『国際韓国語教育学会 国際学術大会発表資料集』2004 pp.541-547 国際韓国語教育学会
- 朴ソヨン (2011)「日本の大学で使用する韓国語教材分析—使用頻度の高い教材を中心に—」『韓国語教育』22-1 pp.99-121 国際韓国語教育学会